萌気園二日町診療所に クマの親子来訪

～実況報告～

萌気園浦佐診療所　院長
黒　岩　巌　志

365日無休の萌気園二日町診療所は、12月8日の日曜日も普段通りにオープン。その日の出番だった私は朝8:30から診療を開始した。8:45、職員が電話で話す声が聞こえた。「職員が診療所の床下倉庫にクマらしき動くものを発見した。確認が必要」と。確認といっても・・もしクマなら近寄るのは危険である。直ぐに警察、市役所に現場確認の依頼をした。床下倉庫は一部カーテンのような布で仕切られていて容易に侵入できる構造である。

患者がどんどん診療所に入ってきており、また診察後の患者は外へ出ていく。警察、市職員が来るまで当院職員が患者に付き添い誘導することにした。

倉庫を確認したところ2頭のクマが眠っている。直ぐに当院駐車場入口が警察により封鎖され午前10:30には新たな患者の来院は出来なくなった。クマは眠っている・・当院で冬眠を始めた？そんなに居心地のいい場所が床下倉庫にあったのか？と私は思った。

萌気園二日町診療所には二つの介護サービス事業所が同じ建物の中に併設されておりその日もデイサービス利用者が大勢来ていたが皆帰宅してもらった。

病気で苦しむ患者、看てくれる家族がいないデイサービスの利用者、また周辺住民にとっては迷惑な状況である。

クマを生け捕りするために麻酔業者を呼ぶとのこと。この地域に猟友会の方は居るが、麻酔業者は新潟県内に1人も居ない。群馬県高崎市から麻酔業者が当院に着いたのは午後3時過ぎ。麻酔針は3発中1発が1頭に当たったが眠らない。この時3頭目の子クマが居ることが判明。花火での追い出しも試みたが不発。日が暮れ安全に捕獲作業ができないとの判断で翌朝6:30から捕獲再開の方針となった。

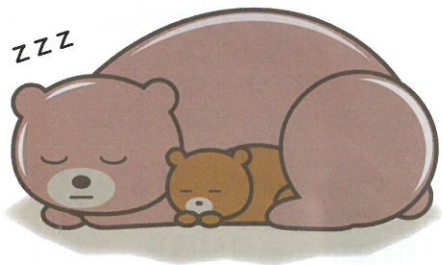
翌朝6:30、市、県、警察、麻酔業者、猟友会が当院に集合し作戦会議。7:00に先ずは大声を出したり棒でつついたり追い出しを試みたところ、3頭とも外に出てきた。猟友会員に向かってきたため散弾銃を発砲したが当たらず3頭とも倉庫に戻ってしまった。捕獲作業中は交通規制を敷かなければならず朝の出勤時間帯は作業を休止し、10:00に麻酔銃を母クマに放ったところ命中。11:30に母クマの睡眠状態を確認し4人がかりで檻に運んだ。2頭の子クマは麻酔無しで猟師が手づかみで檻に入れた。この際子クマが猟師の足に咬みついたが大丈夫だった。診療所は同日夕方から診療を再開した。

3頭のクマは自然保護団体「日本熊森（くまもり）協会」に引き渡され新潟県三条市内で冬眠し来春どこかの山に帰される予定となった。

クマ、人間とも死傷者はでずハッピーエンドといっていい結末となった。

このクマ騒動は、全国ニュースとなり日本中に萌気園二日町診療所が放映された。恐らく多くの人が、「クマが冬眠の場に選ぶほど居心地の良い診療所」と当院をとらえてくれたのではないかと思っている。

クマを生かすか殺すかの判断は当然私にはできないが、地域住民の命を守るためには殺すこともやむを得ないことだと考えていた。今は、冬眠に訪れただけの親子クマを殺すなんて人間の身勝手だと思えるし、もし散弾銃の当たりどころが悪く殺してしまったなら萌気園二日町診療所は残酷で身勝手な人間社会の象徴となっただろう。

最後に、クマが当院で発見された日の深夜12時にスノータイヤに交換し兵庫県から車で遠路遥々不眠不休で当院まで来てクマ3頭の保護に尽力された日本熊森協会の方々、そして2日間に渡りクマ捕獲に尽力した猟友会・麻酔業者・県市職員・警察の方々に敬意を表する。

母クマは覚醒後与えられたドングリを狂ったように食べたとのこと。冬眠のための食糧が山に無かったのであろう。